

令和8年度第1回越谷市生涯学習審議会会議録

1. 期 日 令和8年（2026年）7月8日（水）
2. 会 場 越谷市中央市民会館5階 4～6会議室
3. 開 閉 会 開会 午後2時00分 閉会 午後4時00分
4. 出席委員 27名
板川委員、宮園委員、矢嶋委員、宮崎委員、戸張委員、杉山委員、島村委員、大野委員、佐々木委員、藤波委員、弘中委員、西村委員、飯島委員、利根川委員、住田委員、三勢委員、小林委員、近藤委員、青木委員、福島委員、北畠委員、千葉委員、井本委員、金子委員、野上委員、廣澤委員、三矢委員
5. 欠席委員 5名
芥川委員、浅見委員、田島委員、大崎委員、富田委員
6. 事務局出席者
野口教育総務部長、川澄教育総務部副部長兼生涯学習課長、
福井 桜井公民館長、市川 新方公民館長、北澤 増林公民館長、
早山 大袋公民館長、谷口 荻島公民館長、坪内 出羽公民館長、
湊谷 蒲生公民館長、清水 川柳公民館長、松山 大相模公民館長、
齋藤 大沢公民館長、松尾 越ヶ谷公民館長、鈴木 南越谷公民館長、
百崎 北越谷公民館長
生涯学習課：北郷調整幹、野中主幹、新井主幹（統括）、細井主幹、加藤主任

会 議 次 第	
1	開 会
2	あいさつ
3	報告事項 (1) 埼葛郡市社会教育振興会理事等の選出について (2) 令和8年度事業について (3) 社会教育・文化施設の使用料について
4	協議事項 (1) 若者の生涯学習活動への参加について
5	そ の 他
6	閉 会

会議内容

- 1 開 会 北郷調整幹（司会）
- 2 あいさつ 北畠会長
野口教育総務部長

3 報告事項

（１）埼玉葛郡市社会教育振興会理事等の選出について

- 議 長 事務局に説明を求める。
- 事務局 会議資料及び資料１に基づき、各組織の概要について説明する。令和８年度・９年度は、越谷市が副会長及び監事に該当しており、会の運営に関わる役割が充てられていることから、事前に副会長は住田委員、監事は三勢委員にお願いし、ご承引いただいていることを説明する。
※委員から意見等なし

（２）令和８年度事業について

①社会教育について

- 議 長 事務局に説明を求める。
- 事務局 アについては資料のとおり開催し、本市からは５人出席した。
- 議 長 出席委員に補足等を求める。
- 委 員 ※出席した委員から以下のとおり感想が述べられた
青年に対する社会教育が足りていないという話が印象に残っている。
また、せっかくの越谷市開催だったので、もっと多くの委員に参加していただきたかった。とても有意義な研修会だった。

②公民館について ア 公民館主催事業

- 議 長 事務局に説明を求める。
- 事務局 各公民館長から令和８年度の特色ある事業等について資料２に基づき報告する。
- 議 長 委員に質疑等を求める。
- 委 員 毎年公民館の事業報告を聞いているが、参加者が増えていない。
講座後にアンケートを取っていると思うが、その中で講座に参加した理由の項目を入れてもらいたい。様々な事業の周知方法はあるが、仲間に誘われて参加している方が多いのではないかと考える。

○議 長 毎年同じ講座を企画していても、参加者は毎年同じなのか、違う方が参加しているのかなどのデータもうまく活用する必要があると思う。

また、ご意見のとおりアンケートを実施して、講座を知ったきっかけが分かれば、いままでとは違う場所にチラシ等を置くなどして、また新たな参加者が増えるのではと想像できる。

循環型生涯学習ということを考えるならば、同じ人だけではなくて様々な人に参加をしていただくということも、今後は必要になってくるのではないかと思う。

②公民館について イ 生涯学習課との連携事業

③家庭教育について

④その他生涯学習の推進について

⑤文化振興事業について

○議 長 一括して事務局に説明を求める。

○事務局 会議資料に基づき説明する。あわせて、以下の事業について補足説明する。

「生涯学習オンライン講座」について、今年度より新規事業として本格実施する。普段は仕事等で市の講座に参加できない方を主なターゲットとしており、「大人の教養」と銘打って、Z o o mを使用したリアルタイムの講座を実施する。

また、入室の仕方やマイク・カメラ等の操作方法についてのマニュアルを作成し、事前に受講者へ配付する予定である。

「越谷市県展記念作品展」については現在開催中であり、多くの方にご参加いただいている。

「能楽体験事業」について、6月28日に体験教室を開催し29名の方にご参加いただいた。また、今年度より連続講座を3回の入門講座と6回の初級講座に区分するなど、積極的に受講できるよう内容の見直しを図っている。

○議 長 今年度から新たにオンライン講座を実施することとなった経緯は。

○事務局 本市の監査の中で、さいたま市でオンライン公民館という事業を実施しているが、本市ではデジタル技術を活用した市民向けの講座を実施する考えはないかと意見があった。その時点では、対面での講座を重視し

ていると回答したが、コロナ禍でオンライン環境が普及したことや、実際に仕事等で市の講座に参加できない方がいるという現状があったことから、オンラインでの講座を企画するに至った。

○議 長 対面で直接会うことは大切であり、オンラインは対面ではないと言われることもあるが、実は双方向で意見を言えるということがとても重要だと考えている。大学でもＺｏｏｍを使用して学生の意見を聞きながら行う講座もある。各公民館でもＺｏｏｍを使用した講座等が増えることで、住民とのつながりが増えると思うし、住民からの意見ももっとたくさん聴取できるようになるのではないかなと思う。

○委 員 オンライン講座についてとても素晴らしいアイデアだと思うのと同時に、ＹｏｕＴｕｂｅを活用しているさいたま市の講座も魅力的である。講座の開始時間が１９時からとなると、子育て世代の方は仕事から帰ってきて子どもにご飯を食べさせている時間である。

例えば、リアルタイムでなくてもオンラインで後から視聴でき、それをもって講座参加となるような仕組みを設けてはどうか。また、オンラインによる生涯学習を広げるにあたり、例えば子育てのことなど幅広く実施していただけると、青年期の方ももっと参加しやすくなると思う。

○議 長 ＹｏｕＴｕｂｅの活用について、例えば予約して見られなかったら後で見られるというオンデマンド方式もあるので、双方向のコミュニケーションではなくなるが、そういった環境の整備も検討してもらいたい。

(3) 社会教育・文化施設の使用料について

○事務局 会議資料に基づき、各施設の使用料見直しについて説明する。

越谷市及び越谷市教育委員会が所管する公共施設の使用料については、市が平成１７年に策定した「使用料等の在り方に関する基本方針」を基に設定されているが、社会経済情勢や本市を取り巻く環境の変化を踏まえ、公共施設の老朽化による維持管理経費の増加や多様化する利用者のニーズなどに的確に対応するため、令和７年６月に本方針が改定された。

新たな基本方針に基づき、全庁的に令和９年度からの使用料等について見直しが現在行われており、本審議会の協議範囲に関連する施設は、地区センター・公民館、越谷市日本文化伝承の館こしがや能楽堂、越谷コミュニティセンターの３施設となっている。

なお、越谷コミュニティセンターについては、今後の越谷サンシティの在り方に関する方針の検討中であることから、今回の使用料改定は見送ることになっている。

また、地区センター・公民館については、地区センターの所管課である市民活動支援課が主導となって見直しを進めており、現在、各地区センター・公民館の利用者や地域住民に向けた説明会を開催している。

○議 長 委員に質疑等を求める。

○委 員 2年前に授業の一環として越谷コミュニティセンターに指定管理者制度の導入と運営についてのヒアリング調査を行った。その際に、コミュニティセンターについては老朽化などが進んでいて、毎年維持費がとてもしかむというお話をいただいたが、予算や決算のデータが公表されておらず、施設からも情報をいただけなかった。

実際にどれほどのお金がかかっていて、この値上げを行うことでどういった部分に対して予算を使っていけるのかなどの使用料の見直しを行うための前段階の資料などもあったほうがいいのではないかと思います。

○事務局 コミュニティセンターについて、歳出は毎年6億円程度かかっており、それに対して使用料としての歳入が1億円程度なので、毎年5億円程度は市費からの支出となっている。

使用料の算定にあたっては、指定管理の委託料や光熱水費、修繕に係る工事費等の施設運営費に対して、各施設の特性ごと決められている受益者負担率を掛け合わせて、施設全体の受益者負担額を算出している。その額に対して各部屋の広さや年間稼働数を基に実際の使用料を算定している。また、近隣市町の同規模施設との比較や、従前の使用料からの増加率等も勘案しながら、来年度からの改正に向けて検討を進めている。

施設の予算や決算のデータについては、指定管理者としては公表できないとのことかと思うが、研究のためにデータが必要とのことであれば、改めて検討させていただく。

○議 長 使用料については、平成17年から値上がりしていないのか。

○事務局 その通り。

○議 長 この20年間で郵便料金なども値上がりしており、使用料の改定は必要なことと思うが、なるべく住民に負担が少ない形で検討いただきたい。

4 協議事項

(1) 若者の生涯学習活動への参加について

○議長 事務局に説明を求める。

○事務局 会議資料に基づき、説明する。

生涯学習課や各地区センター公民館では、越谷市教育振興基本計画に基づき、地区の特色を生かしながら各種学級講座を開催しているが、青年期を対象とする事業については、実施をしてもなかなか参加者が集まりづらい。若者の公民館利用や地域参加も少なく、若者の生涯学習活動への参加は、以前より全国的な課題の一つである。

実際に令和7年度に公民館で実施した青年期事業について、参加者の大半は青年期以外の年齢層となっており、狙いと結果が一致していない状況となっている。

一方で、若者にも事業に参加してもらったり、公民館を利用してもらうための取組として、各種SNSを活用した事業周知や公民館の空き部屋やフリースペースを活用した学習室の開放、また青年期の事業については、平日の夜間や休日に開催したり、今年度からZoomを活用したオンライン化も進めている。

若者が生涯学習活動に参加する、また公民館を気軽に利用することは、地域活動の活性化につながることであり、より一層推進していくにあたって、新たな事業展開や着目すべき点、お気づきの点等、皆様からご意見を頂戴したい。

議題を2つ用意しており、(1)若者が興味を持てる、また参加してみたい事業の分野、ジャンルとは、(2)若者が公民館に来やすくなる取組や工夫とは、についてご意見いただきたい。

○委員 まず、若者が興味を持てる事業分野について、卒論の研究の一環で、国や県の社会教育主事の研修会などに参加しているが、やはり子どもたちが地域に出てこず、学校と家庭で完結してしまうことが全国的な課題になっていると聞く。その中でも、例えば公民館の受付業務や主催事業の運営を学生と行政とで一緒に行うなど、若者が運営に関わる事業が好事例として挙がることが多い。

市の公民館の主催事業は、受講者側の内容がとても多いと感じており、

学習の機会を創出するという点はよいが、次につながりにくいと感じる。社会教育分野の講座を受講した学生が、今度は発信の場であったり、自分が活躍者として携わっていくような講座もあるとよい。

また、来やすくなる取組、工夫としては、学習室の開放などで来てくれた学生に対して、協力を促す形で歩み寄ることで、何かこういうことをやってみたい、地域をよりよくするためにはどうしよう、考えてみよう、やってみようみたいな形で、地域に愛着を持って参加できる環境が作れると思う。

○委員 長年、放課後こども教室や公民館講座の企画運営に携わってきた経験から話すが、大学生になるまでの子は忙し過ぎる。まず、ほとんどの子が塾や受験勉強などで日曜日しか空いていないが、日曜日は友達と遊んだり出かけたりするので、空いている時間が少ない。駅に近い公民館であれば仕事終わりに立ち寄りやすいが、駅から遠い公民館はそれも難しい。

また、若い世代は自治会へ加入していない人が多く、地区センターだよりも配られないため、そもそも情報を届けることが難しい世代である。

○委員 一方的にこちらから押しつけるのではなく、若者が何をしたいのか直接アンケートを取ってみてはどうかと思う

○委員 公民館のフリースペースや学習室を利用している若者が多い印象がある。他自治体の公民館に行った際、満席に近いぐらいの高校生が勉強をいていた。非常に身近で、自由に使ってちょっとおしゃべりもできる社交の場として、公民館のスペースというのは多く利用されていると思う。

また、「川のあるまち」のデジタル版を作成し、自由に投稿できる場を作るなど、デジタル上のフリースペースがあれば若者の意見を取り入れて、興味も持っていただけるのではないかと思う。

○委員 地区の子ども会で子育て座談会を開催した際、その中で高校3年生のお母さんがいて、18歳で成人になってできることや気を付けることなどを知らない子が多いと意見があった。18歳になったから親に隠れて携帯電話を安易にローンで契約してしまったり、詐欺で受け子をやってしまう子や安易な気持ちで犯罪に走ってしまう子もいるとのことである。

社会人になったときに、過去にローンを組んでいたことで就職が取り消されてしまうような話もあるそうなので、18歳になったら、犯罪に

巻き込まれないような講座など、親も交えて受講できるような講座があると安心である。

○委員 定期的に公民館の学習スペースを利用していたが、テスト期間と思われる学生や、資格を取るために勉強している方もいて、学習室の開放はとても皆さんのためになっていると感じた。

また、児童館では、今流行っている韓流風ダンスなどが満員になっているという話も聞いた。

ただ、子どもたちはすごく忙しくて、週6日習い事をしている子もいたりする。それは時代の流れで仕方ない。

○議長 公民館でも、使われているところは使われている。使われていないところはあまり使われていないという違いもある。

○委員 例えば空手だとか、今は小中学校の体育館を借りてやっているが、週に1回でも公民館を使えば、公民館も定期的に使われるのかなと思う。

また、こしがやミュージックフェスタとはどのような事業か。

○事務局 ミュージックフェスタはもともと大袋地区から始まった事業で、現在は113館合同事業となっている。アマチュアでジャズや吹奏楽やっている方や、文教大学や獨協埼玉中高の学生にも出演を依頼し、音楽を通した地域活性としてコミュニティセンターで行う事業である。

毎年多くの方に来場いただいております、特に小ホールは満員になることもある。

○委員 練習は各公民館で行っているのか。

○事務局 各団体の練習場所は把握していないが、吹奏楽は人数も多いため公民館で練習は難しいのではないかと。

○委員 内容を事前に知っていれば、自分の息子や後輩などに取材をすることができたので、事前に告知いただきたかった。

公民館はコミュニティの場所だと思うのだが、例えば学生に講師を務めてもらってもよい。具体的に言うと、今、学生短歌が盛り上がっているのだから、大学の短歌サークルの人たちを呼んで、一緒に短歌を勉強しませんかとか、ジャズでもファストファッションの話でも、世代をまたいで若者から学ぶような講座があればお互いにメリットがある。昔は3世代同居の家庭が多かったのだから、家庭内で世代間交流ができていたが、今は世代間の交流が少ないため、若者にも誤った年寄り像を直してもらい

たいし、若者とのコミュニケーション術を学ぶ機会があればぜひ参加したい。

また、学習のやり方について、越谷市の郷土史などは座学になってしまう。それでは学校の教室と同じである。ところが、ほんと越谷のイベントでは、20人ぐらいで頻繁に質問が飛び交っている。コミュニケーションの場としての原点みたいなことと言うと、行政の方が主催した講座を受講するのではなく、学生に来てもらうなどして、若者から学ぶ機会があるとよい。

○委員 私も学生から学びたいことたくさんある。例えばLINEの使い方や裏技など。今までは近所付き合いで教えてもらうなどもあったが、今は若者と交わらないため、それをあえてつくっていく場所になるとよいと思う。

○委員 大学生と日々接しており、具体的な意見として考えると、とにかく今の若者はダンスが大好きである。みんなで上達しようという企画があれば来てくれる感じはする。

また、大学の授業で、自分たちが抱える問題を考える課題を出すのだが、彼らは結構悩みを抱え持っていて、何か自己肯定感が低いというか、自分のことが分からないとか、それからいじめが起こったときにどうしたらいいのかとか、あるいは不登校の友達がいるのだけれども、不登校ってどういう生活を送っているのかなとか、そういう日々の生活の中で学校では学べないようなことを、皆で意見を出す形で学ぶようなプログラムを作ってくれることが多い。若者が持っている課題は、大人にはなかなか分からないかもしれないが、例えばヤングケアラーのことなど、そういった課題を理解する場が欲しいという気持ちがあるのだと思う。

最近では人生100年時代の中で、20歳ぐらいの彼らもどのように100年を生きていったらよいかということも考え始めているということなので、そのような内容をテーマにするのもよいのではないか。

あと、例えば地域のお祭りをやると、どこにこんなに子どもがいたのかと思うぐらいたくさん子どもが来て、すごく楽しそうにしている。そこでお手伝いで焼きそばを焼いたりしている子どもたちがいて、そういうことに関わっていくための準備みたいな講座があると、子どもたちは一緒にお祭りやろうといった感じが出ると思う。

広報の方法として、例えばレイクタウンのどこかに全公民館のチラシを置く場所を確保して、若い世代の人たちがレイクタウンにたくさん来ると思うので、公民館に行かなくても、買物に行ったときにチラシが手に入るといった方法もある。

今、学校で課題解決型学習ということで、総合的な学習の時間で、いろいろ課題を解決しようということをしているが、例えば公民館にどうやって若い人たちが来てもらえるようにするかということを経験にして、総合的な学習の時間で子どもたちに考えてもらおうということもよいと思う。

○委員 子どもたちは部活動やその他学校の行事、習い事などで、なかなか公民館を利用するというのは難しいと思う。そのような中でも学習室の開放はもっと進めてもらいたい。子どもたちはテスト前になると勉強するところを探し、受験前も勉強するところを探している。マクドナルドやスターバックス、図書館も越谷には数があるし、市役所で少し勉強できるところもあるが、どうしても数に限りがあるし、駅から遠いところは少ない。なので、地域に寄り添った公民館がきちんと学習室を開放しているということが子どもたちに知れ渡れば、どんどん広がっていくのではないかと思う。小学生がカードゲームをしたり、カード交換をしたり、シール交換をしたりというのはフリースペースでよいのだが、勉強したい子はきちんと学習室を確保して、静かに勉強できるスペースがあるとよいと思う。

2つ目に事業の周知について、今どきの子はあまり紙を手にとって読むということではなくて、常にスマホで動画を見ている。SNSを活用し、公民館を動画で宣伝したらよいのではないかと思う。県立高校もSNSに力を入れており、学校説明会に行くよりも子どもたちが直接動画を見れるということが大切なので、SNSを活用したらよいのではないかと思う。

○議長 まず公民館がどういうことをやっているのか知っている若者が少ないのではないかと思った。また、SNSや動画を活用して公民館自体の宣伝も必要ではないか。

若者に対しての事業に関しては、アンケートをしてはどうかとの意見もあったが、各公民館が事業後に取りアンケートの中から抽出するとい

うことも大切かと思う。若者がしたいことを実現させることができるような環境づくりというのは、各公民館が考えるのがよいと思う。

まず公民館の存在、それから若者が何をしたいのかということと、上の人も下の人も関係なく意見を情報交換する中で学びになるような、そういった場として公民館があるとよいとの意見もあった。

今日出た意見を参考にして、今後の公民館事業や生涯学習の場をどう設けるかということを考えていただきたい。

※北畠会長が議長の職を降り、司会が進行役となる。

5 その他

○事務局 連絡事項を1点伝える。

本審議会の今後の予定について説明する。第2回会議は10月下旬から11月中旬に、第3回会議は令和9年3月に予定している。日程等の詳細が決まり次第、郵送で通知する。

6 閉 会 千葉副会長